

## 令和6年度事業計画

令和6年度は、当財団が公益法人に移行して11年目であり、香川県から指定管理者の指定を受けている公渕森林公園及び香川用水記念公園両公園の第4期指定管理期間(令和3年度～令和7年度)の4年度に当たる。

前年度に引き続き、両公園の適切な管理運営に努めるとともに、緑の募金や森林の整備及び緑化の推進、さらに野生傷病鳥獣保護事業等に積極的に取り組む。

### [1] 森林公園管理事業

森林には、木材等の林産物を供給する役割だけでなく、国土保全機能、自然環境の保全及び保健・レクリエーション機能などさまざまな公益的機能が備わっており、これらの公益的機能は県民の生活と深くかかわっている。また近年、地球温暖化等の環境問題防止の役割や環境教育活動の場の提供など、県民の森林に対する期待は多様化している。

当財団は、香川県公渕森林公園を森林の持つ公益的機能の普及啓発を図る場として位置付けるとともに県民と協働で森林公園の利活用を促進するために、香川県から指定管理者の指定を受けて次の事業を行う。また、県が計画している公渕森林公園にぎわい創出事業に協力し、公渕森林公園のより一層の魅力向上に努める。

#### 1 利用促進の実施

- ア 自治体の広報誌や各種事業体が発行するタウン誌、Webメディアなどを活用し森林公園を紹介する。
- イ 花壇や樹林などの園内施設を、ボランティアなど緑化推進を担う人材の育成・支援の拠点とし、県民協働で、サルビア、マリーゴールドなどの草花を播種・育成し、花壇などに植栽するとともに緑化推進用に来園者に配布する。
- ウ 園内案内看板・掲示板、ホームページ等を活用して、花木等の開花状況や樹木の紅葉状況などの案内を行う。
- エ 公渕森林公園の案内図、ウォーキングコース図及び公渕森林公園を楽しむチラシ等の配布を行う。

#### 2 環境に配慮した取組み

来園者が手軽に体験できるよう、ツル性植物(トケイソウ、アサガオなど)を利用した「緑のカーテン」をつくり、温度の違いの体験を通じて、家庭でも実践できるエコ対策の普及啓発に努める。

#### 3 自主事業の実施

##### (1) 家庭緑化教室の開催

森林及び緑化に関する知識の向上を図り、草花の育て方や庭木の管理など家庭緑化の基礎知識について学べる家庭緑化教室を開催する。

- a 実施時期 毎月1回、第3日曜日(年間12回)
- b 参加対象 県内在住者(35名程度を募集、決定受講者が年間を通じ受講)
- c 参加料 8,000円(苗木、寄せ植え材料費等)

## (2) 夏休みクラフト教室の開催

### ア 夏休み親子木工教室

公園内で採集できる木の枝や実、ツルや木工工作キットなどを活用し、親子が共同して作品作りを行う木工教室を開催する。

- a 実施時期 8月
- b 参加対象 県内在住の親子(15組程度を募集)
- c 参加料 1,000円(キット資材代)

### イ 草木染め教室

公園内で採集できるクチナシの実等のほか、木の皮や、草花の葉、花弁などを染色材料に使って布等の染色を体験する草木染め教室を開催する。

- a 実施時期 8月
- b 参加対象 県内在住の親子(15組程度を募集)
- c 参加料 500円(材料代)

## (3) きのご観察会の開催

公園内に自然発生している様々なきごを観察するなど、きごについて学べる観察会を開催する。

- a 実施時期 9月
- b 参加対象 県内在住者(20名程度を募集)
- c 参加料 無料

## (4) 親子木工教室の開催

木材関係団体と協働で、県産木材の製材端材やキットなどを活用し、親子が共同して作品作りを行う木工教室を開催する。なお、この木工教室は、県やさぬき動物愛護センター(しっぽの森)が計画しているイベントと同時に開催する。

- a 実施時期 9月
- b 参加対象 県内在住の親子(20組程度を募集)
- c 参加料 無料

## (5) 庭木の剪定教室の開催

公園内の樹木を使って庭木の剪定技術を学べる剪定教室を開催する。

- a 実施時期 10月
- b 参加対象 県内在住者(20名程度を募集)
- c 参加料 無料

(6) 松ぼっくりのクリスマスツリーづくり体験教室の開催

公園内にある外国産のマツボックリや木の実等を使ってクリスマスツリーづくりを行うクラフト体験教室を開催する。

- a 実施時期 12月
- b 参加対象 県内在住の親子（15組程度を募集）
- c 参加料 無料

(7) きのこ栽培体験教室の開催

公園管理のために伐採したクヌギなどの広葉樹等を使って、シイタケやヒラタケなど身近な食用キノコの原木栽培体験ができる教室を開催する。

- a 実施時期 3月
- b 参加対象 県内在住者（20名程度を募集）
- c 参加料 無料

(8) 炭焼き体験教室の開催

園内で伐採した支障木等を利用し、園内に設置されている炭窯を活用して窯入れ作業等が体験できる教室を開催する。

- a 実施時期 2月
- b 参加対象 県内在住者（20名程度を募集）
- c 参加料 無料
- d その他 炭、木酢液は主に公園で利活用する。

4 展示会等の実施

公園の入園者は、春のサクラ、秋のキクの時期に集中する。これらの季節の大型イベントなどを地元団体と一体となって展開するなど、来園者向けの各種の事業を通じ、広く県民にみどりへの理解と関心を深める機会を提供するとともに、利用促進を図る。

(1) 桜

園内には、淡墨桜、ソメイヨシノ、八重桜など約5,000本（7種）の桜があり、特にメインロードの約500m続くソメイヨシノのトンネルは壮観である。これを楽しむために、3月～4月中の入園者は、家族連れや団体、福祉施設利用者などが増大し、盛況である。

令和6年度のさくらまつりは、令和7年3月に地元コミュニティが中心となって開催される予定である。当財団は、警察や地元住民の協力を得ながら警備会社とともに園内道路における車輛の通行規制を行うなどの安全対策に協力するほか、園内の清掃、チューリップ花壇の開花時期をそろえるなど、美化と安全な利用に努める。

また、当公園の桜は高齢化や生育環境の変化により樹勢が衰退し、枝の枯損や開花量の減少が目立っていることから、県が令和6年度以降に桜の更新や周辺の景観改善を計画しているほか、令和7年春には桜のライトアップも計画しており、これらの取組みに協力し、当公園の桜の魅力向上に努める。

## (2) 菊花展

当財団が開催している家庭緑化教室の受講者OBを中心に構成された公渚菊花同好会が、日頃の研鑽の成果を披露する場として、併せて菊づくりの啓発及び緑化推進などを目的として開催するもので、約800点の作品が園内メインロードを中心に展示され、中四国有数の規模の展示である。

当財団では、開催期間中の展示品への灌水や資材などの保管に協力するなど、これら団体・県民等と協働で、秋の公園の魅力を増進する事業として取り組むとともに、屋外展示や併催行事の充実等を図る。

## (3) 野外展示など

緑化に関する知識の普及啓発を図りつつ緑化・自然保護意識の高揚等を促すために、花、緑及び昆虫、野鳥などをテーマにした写真展を開催するとともに、記念植樹（移植・補植を含む）の実施や森の案内人の育成を図るなど、身近で親しみやすい森林公園となるよう努める。

## 5 管理運營業務の実施

93haの広さと24時間開放型の森林公園としての特徴を生かし、ジョギング、ウォーキング、軽登山など老若男女が気軽に安全で快適に楽しみ、かつ年間を通じて草花や樹木にふれあうことができる場として、林間歩道や池沿いの遊歩道の整備・管理のほか、各種見本園の植栽管理や施設運営を行う。また、県が計画している公渚池東岸のエリアである「やすらぎの森」で、来園者が快適に散策できる遊歩道「やすらぎの小径」の整備に協力し、ウォーキングなどを楽しむ来園者の利便性向上に努める。

年間入園者数 約43万人（令和5年度：2月末現在 約38万人）

入園料 無料

## [2] 野生傷病鳥獣保護事業

自然界での傷つきや、ビルの窓への激突、交通事故等により負傷し、県民に保護された野生傷病鳥獣の保護収容や野生への復帰に向けた訓練（リハビリ）等に取り組むとともに、市町、獣医師等と連携しながら、救護活動に取り組んでおり、引き続き専門職員を配置し、香川県から委託を受けて「香川県野生鳥獣保護センター」の管理運営を行う。

また、保護された鳥獣の飼料等の提供などについて、県民協働の観点から県民にも呼びかけるなど、鳥獣保護への理解と関心を高めるよう一層努める。

同センターは、平成23年11月に香川県が開設した県内唯一の野生傷病鳥獣の保護施設であり、傷病等のため保護された野生鳥獣に適切な治療等を施し、再び自然界に復帰させることにより、香川県に生息する野生鳥獣の保護を図るとともに鳥獣保護思想の普及啓発の拠点施設である。

## [3] 緑化推進事業

みどり豊かな県土づくりを推進するため、県民の緑化意識を高め、県民総参加による森林資源の活用及び緑化の推進を図る。

## 1 緑化思想普及啓発事業

### (1) 緑化コンクールの実施

緑化の重要性について、児童・生徒の理解を深めるとともに、県民の緑化思想の高揚を図るため、県内の小学校、中学校、高等学校等を対象に、緑化ポスター原画・書道コンクールを実施し、入賞作品を展示するとともに表彰式を行う。また、特選受賞作品については、公益社団法人国土緑化推進機構が主催する国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールに応募する。

### (2) 緑の少年団育成強化事業

緑の少年団の環境学習や林業体験、社会奉仕活動の充実等を図るため、「森とみどりの祭典」などへの参加を呼びかけるほか、県内の緑の少年団の育成や活動を強化するため、新たな少年団の設立促進に取り組む。

### (3) どんぐり銀行活動の実施

自然とふれあう機会のすくなくなってきた子どもたちに、どんぐりを拾うことを通して「森に近づき、親しみ、森と友達になる」ことを目的として、どんぐり銀行の受け付けや苗木の拡販し活動を支援する。

## 2 森づくり活動支援事業

### (1) 森林づくり体験イベントの開催

水や森林の大切さへの理解を深めるため、香川用水の水源地となっている高知県早明浦ダム上流地域の大川村において、森づくり・自然体験活動の交流イベントに取り組む。

### (2) 森林及び緑化に関する調査・研究等

県民総参加による森林資源の活用及び緑化の推進を図るため、里山の保全活動を行っているボランティア団体等対して、情報誌やポスター・パンフレット等の情報提供を行うとともに、各種の緑化イベントに参加して緑化推進の広報活動を実施する。

また、公益社団法人国土緑化推進機構が小学校・特別支援学校を対象に助成している「学校環境緑化モデル事業」について、申請希望校の取りまとめを行う。

## [4] 香川用水記念公園管理事業

香川県が「香川用水の歴史と恩恵を永く後世に伝えとともに県民の憩いの場を提供する」目的で整備した香川用水記念公園について、施設を活用した水資源の啓発とともに、適切かつ効率的な管理運営を行うため、香川県から指定管理者の指定を受けて次の事業を行う。

### 1 利用促進の実施

#### (1) 広報の実施

県内の幼稚園・保育所、小・中学校、公民館、社会福祉施設に対して見学コースに採用されやすいよう、水に関する学習や体験ができる公園であることを周知するとともに、ホーム

ページや各種メディアを通じて施設利用やイベント等に関する最新情報の発信に努め、利用促進を図る。

また、香川用水記念会館に併設された香川用水資料館や、県立ミュージアムをはじめとする香川県資料館協議会、三豊市観光交流局・観音寺観光協会とも連携して、利用促進を図る。

## (2) 説明・案内業務

学校単位の小中学生や各種団体の来園に対しては、水の大切さと県民生活に欠かせない香川用水の重要性について理解を深めてもらうため、水の資料館内の各展示資料等の説明や案内を行う。

JICAや国、県等関係機関の団体に対しては、香川用水の歴史や吉野川総合開発計画等専門的内容の説明に加え、水資源機構香川用水管理所と調整して香川用水東西分水工の案内も行う。

## 2 「水辺の納涼祭」の実施

公園や水の資料館等を活用して、子どもたちが水に触れ、水と親しむとともに、香川用水の水源地域である高知県嶺北地域や徳島県三好市池田町との交流を図るため、地元三豊市財田町まちづくり推進隊や商工会・自治会等で構成する実行委員会との共催により、「水辺の納涼祭」を「水の週間」(8月1～7日)の日曜日(令和6年度は8月4日)に、実施する。

また、国、県、水資源機構、香川用水土地改良区等の香川用水関係機関の協力も得ながら、その内容を充実させる。

## 3 自主事業の実施

### (1) 親子体験教室「わたしたちのくらしと水を学ぼう」の実施

水が最も多く使われる夏場を中心に、県内から公募した小学校高学年の児童とその保護者を対象に、ワークシートを活用して香川県の水事情や香川用水等について学ぶとともに実物展示資料や香川用水施設の見学を通して水の大切さを体験し、水への関心を深めてもらうことを目的とする体験教室を実施する。

### (2) 校外学習「わたしたちのくらしと水」の実施

希望する各小学校の4年生を対象に、水の大切さや香川用水への理解を深めてもらうことを目的として、ワークシートや実物展示を活用した水に関する環境学習会を実施する。

### (3) パネル展等の実施

国、水資源機構、県、広域水道企業団等から香川用水関連のパネル提供を受けて、水の大切さや香川用水への理解を深めてもらうためのパネル展を実施するほか、子どもたちが地域の水にまつわる歴史的背景に身近に触れることができるよう民話パネルを展示する。

### (4) クイズラリー「君も挑戦！香川用水博士」の実施

子どもたちに水について興味を持ってもらえるよう、資料館や公園施設を使ったクイズラリー「君も挑戦！香川用水博士」を実施する。

### (5) 季節の花の植付け実施

香川用水を知る機会が少ない小学生（低・中学年）の親子を対象として、生物には水が必要であることの理解を深めてもらえるよう、季節の花の植付けを実施する。

(6) 秋のライトアップ「公園もみじ巡り」の実施

紅葉スポットとして来園者も多く、アンケート要望が強かったライトアップを新たな魅力の発見と癒し空間の創造のため「秋のライトアップ（公園もみじ巡り）」を実施する。

4 管理運営事業の実施

来園者に安全で快適な空間を提供できるよう、香川用水記念公園（面積6ha）内では、樹木、花木、芝生等植栽の景観保全や除草をはじめ、親水施設（せせらぎの川、じゃぶじゃぶ池）や遊具等の屋外施設について小まめな点検・補修を行い、また、水の資料館では、常設展示資料（香川県の水事情、ため池の発達、先人の苦労を含めた香川用水建設に至る経緯等を表す現物やジオラマ、映像等）及び水源地域である吉野川流域の豊かな自然や洪水被害状況等の展示資料の適切な保全に努めるほか、香川県との情報共有により計画的な設備更新を実施するなど適切な管理を行う。

年間入園者数 約7万人（令和5年度 2月末現在 約6.2万人）

[5] 緑の募金事業

森林や樹木の果たす役割の重要性について、県民に理解と関心を深めていただき、緑を守り育てる緑化運動に結びつけるため、「緑の募金強調期間」を設定し、積極的な募金活動を展開する。

1 緑の募金活動の実施

(1) 「緑の募金強調期間」及び「募金目標額」の設定

春期：令和6年2月15日～5月31日

秋期：令和6年9月1日～10月31日

募金目標額：11,000千円

(2) 普及啓発活動の実施

学校、企業、国・県・市町の公的機関等へ募金協力の依頼文書の発送、学校・企業・職域への訪問活動及び街頭キャンペーンや各種イベント等において、緑の募金のPRを行うなど、募金活動を積極的に行う。

また、全国緑化キャンペーン（春・秋）の実施に伴い、緑化運動のシンボルである「緑の羽根」の着用を知事・市町の首長等をお願いする。

2 「緑の募金」による助成事業の実施

「緑の募金」による寄附金を用いて、水と緑に恵まれた美しい郷土香川の創造に寄与するため、次の助成事業を実施する。

(1) 学校環境緑化事業交付金

学校敷地内の環境緑化を行う学校に対して、前年度の学校募金額の6割を上限として交付

金を交付する。

(2) 緑の募金事業助成金

緑化や環境教育の推進、森林の整備・保全に係る活動を行う者に対して、予算の範囲内で活動に要する経費を助成する。

3 公益社団法人国土緑化推進機構への交付金の交付

緑の募金による森林整備等の推進に関する法律(平成7年法律第88号)第18条に基づき、公益社団法人国土緑化推進機構に対し、緑の募金額(令和6年1月1日～令和6年12月31日)の2%+25万円を交付金として交付する。